

船舶事故調査報告書

平成29年12月20日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突
発生日時	平成28年12月18日 14時52分ごろ
発生場所	北海道苫小牧市苫小牧港第4区 苫小牧港東外防波堤灯台から真方位122° 1.2海里付近 (概位 北緯42° 36.3′ 東経141° 38.6′)
事故の概要	引船 ^{とまこまい} 苫小牧丸は、油送船 ^{サクラガワ} SAKURAGAWAの出港支援作業中、SAKURAGAWAに衝突した。
事故調査の経過	平成29年3月15日、主管調査官（函館事務所）を指名原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	A 油送船 SAKURAGAWA、160,068トン 141042、ジャスミン・シップ・ホールディング合同会社 B 引船 苫小牧丸、197トン 142583、苫港サービス株式会社
乗組員等に関する情報	B 船長B、四級（航海）
負傷者	なし
損傷	A なし B 船首防舷材受け架台に曲損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 西、風速 約4～5m/s、視界 良好 海象：うねり 波高約2～3m、潮汐 上げ潮の中央期 苫小牧市には、12月18日03時45分に強風注意報が発表され、本事故時も継続中であった。
事故の経過	B船は、苫小牧港の企業棧橋付近においてA船の出港支援作業中、タグラインを取り、機関の出力を最大にして船首をA船の船尾部に押しつけていたところ、船尾方からの波高約2～3mのうねりを受けてA船から離れた後、機関の回転数を下げたものの、船首部がA船の船尾部に衝突した。
分析	B船は、苫小牧港においてA船の出港支援作業中、機関の出力を最大にして船首をA船の船尾部に押しつけていたところ、波高約2～3mのうねりを受けたことから、A船から離れた後、A船に衝突したものと考えられる。
原因	本事故は、苫小牧港において、B船が、A船の出港支援作業中、機関の出力を最大にして船首をA船の船尾部に押しつけていたところ、波高約2～3mのうねりを受けたため、A船から離れた後、A船に衝突したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。

	・うねりに十分注意して操船し、出力の調整を適切に行うこと。
--	-------------------------------